

平成 28 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員	箕口委員
I 経営	<p>【評価できる点】</p> <p>県内の他ホールとの連携事業は理想的で、横浜みなとみらいホールとの他ホール間の企画の循環が生まれるのは素晴らしいことだと思います。また、神奈川フィルハーモニー管弦楽団および横浜シンフォニエッタの2つの楽団との共同・連携企画は貴ホールの特徴を強化する意味からも、是非継続していただきたいと考えます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>神奈川フィルハーモニー管弦楽団は県内各地の会場との連携を継続的に行っているため、横浜みなとみらいホールならではの独自の取組が打ち出せるように、同団との間の連携に新たな企画をしていただけると良いのではないのでしょうか。横浜シンフォニエッタとの協働も今後期待したいと思います。一方で、横浜みなとみらいホールだから可能となる地域貢献とは何なのか、ホールのステークホルダーであるオーケストラや行政等ともイメージを共有できるとよいのではないのでしょうか。MICE の推進等は横浜という地の利の活用という意味において、一層進めていただきたいと考えます。また、この取組こそ、みなとみらい地区に位置する施設としての特性を生かすことにつながっていくのではないのでしょうか。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>外部プロデューサー委託も含め専門人材を活用しての取組、特に「横浜芸術アクション」事業として、他施設との連携事業やみなとみらいホールで育った「みなとみらい Super Big Band」の派遣活動は高く評価できる。また教育機関や神奈川フィル等地域演奏団体との連携も評価したい。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>行政評価にもあるように、他施設での公演の経営戦略的意義を明確化する必要がある。また神奈川フィルとの連携については、来年度は県立音楽堂が休館になる事から、定期演奏会はみなとみらいホールだけになるよう（神奈川フィルのHPより）なので、リハーサル会場も含め、より密接な連携が求められるが、そのための基本的な考え方を、市と協議して構築していく必要がある。</p> <p>周辺の商業施設等との相互連携もより具体的なメリット開発を求めていく必要がある。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「音楽事業製作における専門人材の体制充実により、組織体制を強化し」とあります。この強化の表れが、事業の中に取り入れられ、効果を発揮していることを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>音楽事業専門人材だけでなく、みなとみらいホールの認知度を高めるため、及び集客数を拡大するために、広告面プラス経営面の専門人材の確保にも、より力を注いでいただきたいと思います。</p> <p>また、この専門人材の投与を機会に、専門家による職員の育成・指導を行い、より充実した体制にしてほしいと思います。研修費用が予算として計上されていませんが、専門家による研修が必要と思われるので、予算として計上すべきではないのでしょうか。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>横浜音祭り 2016 の事業をホールの運営に効果的に取り入れることができていたと思います。横浜の街そのものが舞台というコンセプトですが、メインの会場は必要であり、その役割をみなとみらいホールは十分に果たせたと思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>メインの会場としての期待に応えることができたことは、ホール来館者は理解していることと思いますが、市民一般への情報の浸透は十分ではないと思います。積極的に広報してよいことであると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>◇組織力の強化として、人員体制を整備することに取り組んでいます。</p> <p>・開館から 20 年弱、音楽に特化した専門ホールとして培ってきた経営、運営および事業企画の実績と経験を継承し、発展させていくためには、インサイダー専門職の人材養成を行うことが、実務組織としては、最も有効かつ効率的な方法です。経営目標として、人員体制の充実、適切な配置を一番に掲げ、かつ具体的な取組を確実にしていることを高く評価します。</p> <p>・専門人材の育成のために、外部プロデューサーを起用し、事業担当者がパートナーとして事業制作と実施に当たるといった体制は、事業企画を自らプロデュース出来る人材育成の方法として、最適です。今年度の知見と経験を言語化し、みなとみらいにおける人材育成の基本として定着させる方向で検討が行われている点も大いに評価します。</p> <p>・外部専門家の起用はあくまで過渡的措置とし、10 年後、15 年後を見越し、インサイダー専門職を組織的に活用する体制も検討していることは、舞台芸術創造拠点としての公共ホール経営における先進的取り組みとして、最も評価できる点です。</p> <p>◇経営面での各政策目標達成に誠実に取り組んでいることを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>◇経営面での将来課題として、ホール運営全体を鳥瞰し、中長期の経営方針を検討立案する専門部署の設置が望まれます。横浜市の文化政策で重要な役割を果たす旗艦ホールの頭脳にあたる部署は、21 世紀型の公共ホール運営には不可欠なものであり、市の文化振興指針の実現にも資するものと考えます。</p>

平成 28 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員	箕口委員
Ⅱ 事業	<p>【評価できる点】 「市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、音楽文化を支える裾野を広げます」「新たな音楽文化を提案する、優れた創造・創作の拠点となります」という2つの視点での活動が、ほぼ毎月なんらかの形で行われていることが見て取れ、創造・発信拠点としての貴ホールのあり方を確かなものになっています。顧客満足度がすべて目標を上回り、90%前後あるいは90%以上と大変高い数字となっている点は、各事業への取組の成果が結実した結果だと考えます。市民あるいは周辺地域の住民が足を運びたいようなホール、優れた独自の視点をもった創造発信拠点として、多くの人が集う場所へと飛躍することが期待されます。それ以上に、国内外からも人々が集う、我が国の顔となるようなホールの活動や存在となることも期待します。また、若手芸術家を起用した具体的な人材育成事業を行っていることも高く評価できます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 人材育成事業については、アーティストおよびアートマネジメント人材ともに、貴ホールならではの取組を行っているということを事業の特徴として、前面に押し出していくことが望まれます。一方で、「芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成」は実施されなかったとの記載がありました。これに関しましては困難な点があるようであれば、具体的な解決策を検討されることを望みます。</p>	<p>【評価できる点】 2016年度は「横浜音祭り」年でもあり、高品質な鑑賞系自主事業や個性的な公演、初心者向け公演等、非常に良く取り組んでいる。創造系事業も、小ホールオペラや現代作曲家シリーズ等、意欲的な取組は高く評価したい。また子ども対象のコンサートを含め、多様なアウトリーチ、インリーチ活動も充実している。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 自己評価でも記されているように、2020年に向けて（さらにはポスト2020年）の中長期的ビジョンを確立していくことが求められる。特に、若い音楽家や企画等の担い手の育成への取組は評価できるが、そのためにはステップバイステップの中期的展開計画が求められる（コンサートを作ろう企画修了生の活用等）。なお追加項目の主催事業の記録化は映像中心でいいのか、特に創造系や普及教育系については記録集などテキストとしてまとめ、ノウハウを共有できるようにしていく必要があるのではなからうか。</p>	<p>【評価できる点】 「1経営」と重複しますが、組織体制強化により、より充実な事業展開を行ったことを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 当初の自主事業収入の予算額 203,176千円に比べ決算額が 8,319千円の増額（4%）をしています。これに対応するのが、事業費だと思われるが、事業費の支出の予算額 236,114千円に対して決算額が 265,083千円となり、28,969千円増額（12%）しています。事業費の支出、事業費収入に比べ大幅に増加しています。管理費が大幅に減少したため、支出に大きな影響がなかったと思われる。今後の事業展開にあたり、収入の増加（減少）とそれに伴う事業費のバランスをもう少し考慮していただきたいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 周辺施設との連携の効果がでてきている点が高く評価できます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 事業内容が多様化し、充実してきていると思います。事業の優先順位のつけ方が、さらに重要になると思います。</p>	<p>【評価できる点】 ◇質・量ともに充実した公演事業が行われています。 ・国際水準の演奏家を擁する公演から、普及活動に心を砕いた活動まで、極めて幅のひろい取組が行われていることが大変よくわかります。 ◇公演企画の立案にあたって、ホールの運営指針を前提としたコンセプトの共有が行われています。この点を高く評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ◇将来課題として、これだけの頻度の事業を完遂するためのワークロードを把握し、適切な人員配置が行われているかを確認するリフレクションの工夫が必要です。 ・ベクトルが異なる事業企画（例えば、ホール公演とアウトリーチ活動）をどのように分担するか ・その質感の維持をどのように行い、評価するか ・企画ごとのアウトカムの評価とリフレクションを記録に遺し、どのように将来計画につなげるか 公演事業等の活動を質量ともに充実させたことにより、評価の軸索をどのように置くかを議論する時期に来ていると考えます。</p>
Ⅲ 施設運営	<p>【評価できる点】 大ホール、小ホールは極めて高い稼働率を達成しておられます。課題となっているレセプションルームの稼働率アップも改善が図られました。ウェブサイトへのアクセス数が大幅に増加していること、メールマガジン登録者が大幅に増えていることなど、多くの点で目標値を上回っていることが評価できます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 各媒体への情報掲載数が月間70件目標に対して月間225件平均となっている点は大いに評価できます。今後は掲出内容そのものの状況、質や発信対象となる範囲についてなど、提供する情報の質に関する検討も行き、さらに効率の良い、優れた内容の情報発信に努めたいことを望みます。</p>	<p>【評価できる点・改善が必要と考えられる点】 企業顧客向けコンサート、特に新聞社等以外の一般企業のそれは、ホールの新しい取組として高く評価できる。しかし、（行政評価にもあるように）一般企業がどうホールと連携できるのか具体的な使い方のPRや、実際の連携に当たった専門的アドバイスなど、その手法をプログラム化していくことが求められる。なお、こうした業務評価で述べるべきことではないが、みなとみらい・関内等近隣地域のホール（県民ホール等県の施設も含め）どのように利用者が使い分けられているか、各ホールが共同で調査し、その上で役割分担ができる部分ははっきりさせていくことが必要なのではないか（その上で、それぞれがホールの特性を踏まえたプロモーションなどに取り組むのが合理的だと考える）。</p>	<p>【評価できる点】 利用率の達成指標が、リハーサル室・レセプションルームを除き、上回ったことを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 レセプションルームの収益を上げるためにもHPの質を上げるのが必須だと思われる。今回の委員会のヒアリングで、HPの更新を検討しているとお聞きしました。昨年度の委員会でもHPの話をしました。専門人材の体制が充実しているのですから、改善するにあたり、もう少し迅速に対応が必要かと思えます。</p>	<p>【評価できる点】 利用者のニーズや利便性を考慮した運営が行われていたと思います。とくに、リハーサル室の利用率が非常に高くなってきている点は、素晴らしいことであると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 リハーサル室、レセプションルームの運営に、利用者の意見を反映させる余地があるかもしれません。</p>	<p>【評価できる点】 ◇ホール施設利用者の利便性に配慮し、訪れる観客の満足度を勘案した運営を評価します。 ・施設運営にあたって、ホールの存在意義や役割を職員が共有出来る取組（研修）が行われています。 ・託児サービスを積極的にを行い、子育て世代支援に力を入れています。 ・ホール以外の施設利用を促す試みが行われています。 ◇広報活動全般に、PDCAサイクルが有効に働き、前例に囚われない独自の取り組みが行われ、成果も上げていることを大いに評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・施設運営の将来課題として、ホール以外の施設利用のあり方も事業の一環に組み込み、市の文化振興指針の実現や育成事業の充実につなげる設計が行われることを期待します。 ・広報活動をホール経営運営戦略と直結させ、一貫性のある対外発信機能を充実させることを期待します。</p>

平成 28 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員	箕口委員
IV 維持管理	<p>【評価できる点】 定期点検等も計画どおりに実施、過失事故等も0回となっていて、確実な施設維持管理がなされていると言えます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点・改善が必要と考えられる点】 行政評価にもあるが、複合施設としての取組、特に危機管理（予防安全を含む）や、（これは施設運営にも関わるが）障がい者対応（車椅子などのバリアフリーは当然なされているだろうが）、特に視覚障害者への対応（施設の点字説明の他、スタッフやボランティアなどによる人的サポートも含め）、更には（近年演劇等で問題提起されている）聴覚障害者への対応の検討など、2020 東京オリパラに向けての「パラ文化」への対策も求められる。</p>	<p>【評価できる点】 老朽化が進む中、過失事故が0件であることは、適切な管理ができていたことだと評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 劣化が進むと一気に表面に現れ重大な事故につながります。これまで以上に点検には力を入れ小さな劣化も、見逃すことなく、横浜市と連携して、安全面を確保願います。</p>	<p>【評価できる点】 独立した建物ではないという点は、短所でもあり、長所でもあります。ホール各階ロビーからの景観等もあり、居心地のよい場を提供できていると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 音響面への経年劣化の影響はあるのかも知れませんが、演奏者、リハーサル室等利用者の専門的な意見を、維持管理に活かしていただきたいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 ◇安全を第一とした管理方針を高く評価します。 ◇みなとみらい地区の主要施設のひとつとしての質感や手抜きのないサービスの提供に配慮し、維持されていることを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>
V 収支	<p>【評価できる点】 文化庁の助成金獲得、さらに企業協賛金の獲得ともに、大いに実績をあげられており、達成目標の3倍強の収入があったのは素晴らしい成果だと考えます。助成金、協賛金ともに、事業や経営体質の評価が直結するものであり、外部から高い評価を得られていることを証明しました。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 改善を要するとは考えておりませんが、光熱費の削減については、大型施設であることや外部要因が大きく左右することなどから、その実現は困難を伴うと考えられるものの、継続的な削減努力が望ましいと考えます。</p>	<p>【評価できる点】 指定管理料収入比率が50%強と低く（依存しない収支構造）、また自主事業収入が（市の負担金も含めてだが）22%、また協賛金など外部資金が3.5%もあるなど、きわめて優れた運営状態にあることが分かる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】 企業協賛金の増加、文化庁助成金の獲得は、企業努力の表れだと、高く評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 今後も協賛金の増加・助成金の獲得に努めるとともに、本来の自主事業収入（アクション）に力を入れていただきたい。</p>	<p>【評価できる点】 ホールという器にではなく、事業、さらに言えば企画内容にスポンサーが付き、協賛していただけるということであると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 具体案があるわけではありませんが、クラウドファンディングの手法を活用できる事業があるかも知れません。</p>	<p>【評価できる点】 ◇事業収入や指定管理料以外の外部資金獲得（助成金、協賛金等）に注力し、実績をあげておられることを高く評価します。 ・劇場・音楽堂等活性化事業による支援の獲得は、事業活動そのものへの高評価です。 ・外部資金獲得にあたって、組織的取り組みが行われている（属人的取り組みではなく）ことを評価します。 ◇水道光熱費等の運営コストを無理なく適切に軽減させる取り組みを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>
その他	<p>「アウトカム」という言葉とともに、各事業の目指すところ、さらに成果の評価を個別に検証されています。今後は、我が国の文化芸術をリードするホールであることを鑑み、「インパクト」についても検証されていくことを望みます。ここで申し上げる「インパクト」とは、経済効果でもあり、観光効果でもあり、ホールの活動や存在がいかに周辺地域に総合的な影響を及ぼしたかという考え方として、その結果は具体的な数字のみならず、おそらく横浜市民の誇りにも直接、間接につながるだろう重要な考え方になります。国の文化政策でもこの点は重要な論点となっています。そうした状況も鑑み、定性的な点から始めることでもよいので、今後はさらに大きな視点で貴ホールの存在、活動を捉えていかれるように望みます。</p>	<p>市との定期的な政策協議も行われており、恒に取組状況や課題が共有されていると聞く。そうした経営協議を通して、特に中長期の目標や課題を検討してもらいたい（特に、2020に向けた中期的ビジョン作成や、施設運営で述べた、近隣地域のホールとの棲み分け調査等）。</p> <p>また社会包摂的取組を、もっと多様な形で進めていくことが求められる（今はどちらかというと子ども中心。もっと高齢者や外国人、そして施設管理のところでも述べたように多様な障がい者へのハード・ソフト面での対応など）。</p>			<p>・人材育成にあたって、レセプション研修（運営チームの業務）については、かなり手厚く行われています。運営、総務、広報宣伝、事業企画各チームについて、新たな知見や内外ネットワークの構築、上位職に就くにあたって必要とされるトレーニングなども奨励しているとのことで、高く評価します。</p>

平成 28 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員	箕口委員
総括	<p>市民が多様な音楽に親しむ機会を提供する、優れた創造・創作の拠点を形成する、地域社会に貢献する、未来を担う子ども・芸術家・音楽と市民をつなぐ人材等を育む等の各事業において、しっかりとした視点をもって、具体的で様々な取組、活動が行われていることを高く評価したいと考えます。</p> <p>一方で、基本的な方針の総括や業務の方針及び達成目標の総括を含め、「横浜音祭り 2016」への参加やその成果等が繰り返して記載されています。この活動を軸としつつ、次のステップをどのように展開していくのか、我が国を代表するホールとしての役割を担っていくための方策に、具体的に取り組まれることを望みます。そのためには市およびホールが一体となったイメージづくりと、それらに基づいた取組がなされていくことを期待したいと思います。</p>	<p>実はみなとみらいホールはこれまでほとんど行っていなかったが、この度評価委員に選ばれて、現代作曲家シリーズを聞き、たいへん感動した。まだ観ていないが、小ホールオペラもプログラムを見て、興味を感じる。</p> <p>首都圏には音楽専用ホールも数多い中で、どのようにみなとみらいホールの個性・特徴を作り上げていくか、今年度後半には中期事業計画（第3期4カ年計画）が策定されるとのことでもあり、（一部繰り返しもなるが）、</p> <p>1）首都圏、特に横浜中心部の音楽施設との利用者目線にたったのポジショニングを明確化し、「競争と協力」の観点から、それぞれが独自の個性を出した「音楽文化」づくりに向けた取組</p> <p>2）神奈川フィル、横浜シンフォニエッタとの連携のあり方の明確化</p> <p>3）人材育成、特に「音楽と市民をつなぐ人材」の育成の具体的なプランを、教育普及だけでなく、社会包摂的な観点から検討する</p> <p>4）主催事業の記録化・アーカイブ化についても、映像だけでなく、プログラムへの演奏者や批評家、観客の反応も含めた記録を残す仕組みの検討</p> <p>5）外部プロデューサーも含め、専門的人材（スタッフ）の職務と責任の分担と、内部人材の向上に向けたビジョンなどを、ぜひ検討されたい。</p>	<p>指定管理者として、経営面・事業面等当初に比べ充実してきていると実感いたします。</p> <p>より以上に、みなとみらいホールの魅力をひきだすため、力を入れていただきたいと思います。</p> <p>ただ、建物の老朽化に伴い、支出の部の当初予算計上より、修繕費が多くなっております。今後も予測もつかない修繕費の増額が懸念されます。事業収入の圧迫にならなければと懸念します。</p>	<p>横浜音祭り 2016 という機会を有効に活用できたと思います。個人的には、横浜音祭りの印象がメインになり過ぎ、主会場の印象が薄れた感もありますが、重要なインフラとしての役割を果たせたと思います。独自性の高い事業も展開されていました。</p>	<p>ホール経営、運営に、指定管理者として求められる業務の達成と評価が、実際現場で働いているすべての職員（スタッフ）にとって、どのような努力を求め、その結果、達成感と文化芸術にたずさわることについての矜持につながるか—そのような視点で業務評価シートを拝見しました。ホールも最後は人です。組織が整備され、事業が完遂されるのも、人ひとりひとりの「仕事への誇りと前向きな取り組み」の成果です。そうした創造的環境がこれからも確保されていくことを期待します。</p> <p>また、地域の舞台芸術創造拠点としての公共ホールに期待される役割は、近年大きく変化しています。横浜市として、みなとみらいホールをはじめとする横浜市の文化芸術施設がそれぞれの強みを活かす共同戦略を構築し、それに沿った指定管理業務のスペックを考案し、クリエイティブシティ YOKOHAMA ならではの先進性を内外にアピールする絶好の機会とすることを強く望みます。</p>

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 経営 (1)政策目標(経営) 施設が持つ機能を最大限に活かし、総合力ある経営を行う	横浜市の文化政策を実現化するため、専門人材の充実と適切な配置による組織体制の強化に努める。またホールが持つ機能を最大限発揮し、音楽文化を通じて都市活性化に寄与することで地域社会への貢献度を高める。	1 組織力を強化する ■適切な人員配置	実施	実施	B 提案書に基づいた人員体制を整えました。特に事業企画グループについては財団の定める専門職員を配置するとともに、外部プロデューサーも業務委託で登用し、主催事業の質を向上させました。	【成果】 音楽事業制作における専門人材の体制充実により、横浜音楽祭2016期間を中心として個性的で質の高い主催事業を実施し、主会場としての役割を担いました。音楽祭期間には、街の賑わいづくりを意識しながら他施設連携を含むアウトリーチ事業を多数実施しました。教育機関や地域の演奏団体との連携にも取り組み、地域社会への貢献に努めました。 【課題】 主催事業の向上に一定の成果を得た年度ではありましたが、次年度以降に続く、開館20周年(2018)、次期音楽祭(2019)、オリバラ年(2020)を視野に、より個性的で質の高い主催事業の企画立案に取り組む必要があります。その成果を元に、地域貢献においてもより総合力を発揮できる施設を目指します。神奈川フィルとの連携は個々の取り組みは好評を得ているものの、現状では地域のオーケストラとコンサートホールによる相乗効果による魅力発信としてはまだ不十分であり、今後オーケストラとの継続的協議を必要とします。	【評価できる点】 ・横浜みなとみらいホールで育ったみなとみらいSuper Big Bandが他施設に出向いて事業を実施するなど、財団の強みを生かしたプロジェクトであったことを評価します。 ・大きなイベントにとらわれず、音楽を通じて都市を活性化するという視点で、地元オーケストラである神奈川フィルとの連携について、引き続き取り組んでください。 ・28年度は、横浜みなとみらいホール開館当初からの事業であるみなとみらいクラシッククルーズの内容や回数、料金を見直し、クラシックマチネとして一新するなど、事業の大幅な見直しを行うなど、外部プロデューサーの視点や専門人材の配置が、効果としてあらわれた点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・他施設での公演は、横浜みなとみらいホールに来館したことのない顧客を開拓する好機であることから、ホールで開催する公演よりも、横浜みなとみらいホール自体を効果的にPRすることが求められます。事業実施に当たっては、より効果的な広報を期待します。 ・ホール内部での人材配置、また人材育成を進めることで、今後も、横浜みなとみらいホールのオリジナリティを発揮する事業を生み出す体制づくりを進めることを強く期待します。
		2 横浜市所管課、財団事務局・所管施設と密接に連携しながら「横浜音楽祭」主会場としての役割を果たす □横浜芸術アクション事業の中で他施設と連携したプロジェクトを実施	2プロジェクト	5プロジェクト	A ・6/25ジャン・ギアン・ケラスとシルクロード・プロジェクト(横浜能楽堂) ・9/2~3メアリー・カサット展連携コンサート(横浜美術館) ・10/15ピヨンド・ザ・ボーダー音楽祭2016(市民ギャラリーあざみ野) ・10/23みなとみらいスーパービックバンド(市民ギャラリーあざみ野) ・11/12シネマ×オルガン(市民ギャラリーあざみ野)		
		3 教育機関・地元オーケストラ団体との協働・連携に取組み、音楽文化を通じた地域社会への貢献度を高めます。 □教育機関との協働・連携企画	5件	5件	B ・昭和音楽大学音楽芸術運営学科インターン2名受け入れ ・桜美林大学、フェリス女学院大学の学生がワークショップにスタッフとして参加 ・横浜女学院職業体験受け入れ ・フェリス女学院大学インターンシップ受け入れ ・オルガン科授業の会場として大ホールを提供		
		□オーケストラ団体との協働・連携企画	2件	4件	A ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団公開リハーサル(2回) ・神奈川フィルの指揮者川瀬賢太郎トークイベント ・横浜シンフォニエッタ連携主催事業実施		
(2)政策目標(経営) みなとみらい21地区及び都心部の活性化及び都市の魅力づくりに寄与します。	周辺の商業施設、専門文化施設間の連携を一層強化し、来館者や来街者が「ホールのある街」を実感できるよう努める。	6 □近隣マンション自治会への協力・情報提供 ■マンション内に設置されたチラシラックへの配架 MMccの活用 □世話人会への参加情報交換 □ホールへ呼び込むプログラムの実施	月1回	月1回	B ・近隣マンション自治会へポスティングなど情報提供を実施(月次)。みなとみらい自治会主催「第7回みなとみらい秋まつり」へチケット協賛を実施(1回)。 ・地域連携を目指してMMccの世話人会に出席。情報交換を実施(3回 会合開催に合わせて出席)。 ・ホールへ呼び込むプログラムとして 神奈川フィル公開ゲネプロ開催(1回、参加242名)、商店街物販イベント開催(3回)	【成果】 みなとみらい地区を中心とした来街者、居住者、就労者に対し、「ホールのある街」をアピールできました。地域と連携し、ホール来館者が街とつながる仕掛けも公演とおして行いました。 【課題】 現状ではパシフィック横浜や近隣商業施設、観光コンベンションビューローなどとの相互連携はまだ成果に至っていないとも言いがたく、2020年に向けて魅力的なプログラムを連携先と協力して開発する必要があります。	【評価できる点】 ・オペラ事業で近隣のアパレルショップから衣装を借り受け、それを事業のチラシ等で効果的に広報するなど、周辺地域の異なる業種との連携に取り組んでいる点を高く評価します。また、地域住民への周知も着実に実施している点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・MICE利用促進については、引き続き、連携を図ってください。 ・会議の参加回数だけにとらわれず、効果的な連携を生み出す関係性づくりに注力して取り組んでください。 ・横浜みなとみらいホールが周辺地域との連携している点についても、「ホールのある街」のアピールにつながるものと考えます。SNSなどを積極的に活用して情報発信してください。また、新たなSNSのツール(フェイスブックなど)の開設を期待します。 ・今後も、通常の横浜みなとみらいホールの利用者とは異なる方につながる場において、積極的に横浜みなとみらいホールの存在を広報し、認知度を高めることを期待します。
		7 ビフォー・アフターコンベンション対応の充実 □パシフィック横浜・横浜観光コンベンションビューローとの情報交換 □MICE利用促進キャンペーン	月1回(年12回)	年3回	C ・キャンペーンは開催せず、レセプションルームの催事利用の視察会を開催(2回)		
		8 文化施設連携事業の展開 □横浜能楽堂との連携事業 □横浜市民ギャラリーあざみ野との連携事業	各1回	能楽堂:1回 市民ギャラリーあざみ野:3回 他施設:4回	A ・横浜能楽堂との連携事業 1回 ・横浜市民ギャラリーあざみ野との連携事業 3回 ・象の鼻テラスとの連携事業 2回 ・BarBarBarとの連携事業 1回 ・横浜美術館との連携事業 1回		
		9 □クイーンズスクエア等とのイベント協力 □近隣ホテル・店舗等とのイベント協力	年2回	年2回	B ・クイーンズスクエアとのイベント協力 2回 みなとみらいSuper Big Band がクイーンズスクエアのイベントに2回出演 ・近隣ホテル・店舗等とのイベント協力 2回 小ホールオペラの舞台衣装をクイーンズスクエアのアパレルショップ複数店舗から提供を受け、その衣装を公演の宣伝とともにクイーンズスクエア内のショーケースに展示。近隣ホテル内のレストランでは小ホールオペラの広報を兼ね、オペラ出演者によるディナーコンサートを開催。		
		10 □ツイッターでの発信	年間200ツイート	年間298ツイート	A 音楽祭期間を中心に話題を数多く創出し、計画以上にツイート数を実施しました。		
		11 ■パブリシティの強化 ※「プロモーションの充実について」を参照					

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 事業 (1)政策目標(事業) 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、音楽文化を支える裾野を広げます。	音楽祭会期を中心に通常年以上のラインナップを揃え、街の賑わい創出や次世代育成など、音楽祭開催主旨の実現をはかる。	ア 音楽専門施設にふさわしい事業 (ア)評価の高い著名演奏家による公演の開催 ●ヒラリー・ハーン ヴァイオリンリサイタル ●ランラン ピアノリサイタル ●パーヴォ・ヤルヴィ指揮 NHK交響楽団 □顧客満足度	80%	89%	A	ア 音楽専門施設にふさわしい事業 (ア)評価の高い著名演奏家による公演の開催 ●ヒラリー・ハーン ヴァイオリン 1,819人 ●ランラン ピアノ 1,649人 ●パーヴォ・ヤルヴィ指揮 N響2回 2,803人 (イ)オーケストラ事業 ●山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団 山根一仁 1,435人 ●石田組(ヴァイオリン:石田泰尚)1,824人 ●青島広志指揮「オーケストラ・バレエ」 1,599人 ●P.ヤルヴィ指揮 ドイツカンマーフィル 榎本大進 1,784人 (ウ)室内楽 ●ジャン＝ギアン・ケラスとシルクロード 430人 ●フォーレ四重奏団 379人 ●アントワン・タメスティ 鈴木優人 横浜シンフォニエッタ 566人 ●山根一仁らによるピアノ・トリオ 406人	【成果】 横浜音楽祭2016の開催期間を中心に、ホールとして初めて取り組む内容の公演も含め、横浜芸術アクション事業を多彩な内容で実施しました。ゲストプロデューサーによるオーケストラや室内楽の独自性豊かな公演により主催公演の芸術性を向上させました。一方、知名度の高い芸人等を起用した公演なども開催し、より幅広い層のお客様がホールに来館する機会を作りました。アウトリーチ事業も積極的に開催し、音楽による街のにぎわい創出に取り組みました。鑑賞者層の拡大を目的として継続してきた昼の低料金コンサートは、今年度より内容を大幅に刷新して実施しました。通年でわかりやすく魅力的に構成された内容と、横浜への観光提案を合わせた企画により事業の発信力が高まりました。オルガン1ドルコンサートは記念すべき200回を経て、多くのメディアにも紹介されました。ここ数年海外からのオルガニストを加えるなど内容の向上にも努め、入場者数を大幅に伸ばしました。 【課題】 横浜音楽祭2016の実績を、次年度以降2018年の開館20周年、2019年の次期音楽祭、2020年のオリパラ年へといかに繋げていくかが課題です。	【評価できる点】 ・「横浜音楽祭」の主会場として、多彩な公演を実施した点を評価します。 ・「顧客満足度」、「合計入場者数」が、「多様な音楽ジャンルの公演」の「合計入場者数」以外はずべて目標を成した点を評価します。 ・28年度は、みなとみらいクラシック・マチネ(旧みなとみらいクラシック・クルーズ)とオルガン1ドルコンサートが節目の年となりました。クラシック・マチネについては、シリーズとしてコンセプトをもった質の高い室内楽のプログラムを提供し、公演チラシではマチネ公演の楽しみ方、みなとみらいエリアのおすすめスポット等のご案内といった観光の要素を取り入れる等、事業内容の見直しを実施しました。オルガン1ドルコンサートは200回記念公演を迎えることとなり、効果的に広報を実施したり、海外オルガニストを加えるといった趣向を凝らしました。こうした様々な検討が一定の効果を発揮した点を高く評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・新しい視点の公演は、公演自体の魅力、聴きどころを伝える工夫が必要と考えます。チラシでの説明方法をさらに工夫し、これまでとは異なる媒体(ツイッターやフェイスブック等)の活用も検討してください。 ・2018年の開館20周年は横浜みなとみらいホールの認知度を高める絶好の機会でもあります。魅力的な公演といったコンテンツだけでなく、横浜みなとみらいホールの魅力を伝えられる広報戦略を検討してください。
		□合計入場者数	5,000人	6,271人	A			
		(イ)横浜音楽祭2016にあわせて横浜オリジナルのオーケストラ事業を企画実施 ●山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団 ヴァイオリン:山根一仁 ●石田組(ヴァイオリン:石田泰尚) ●青島広志指揮 シアター・オーケストラ・トーキョー バレエ音楽コンサート ●パーヴォ・ヤルヴィ指揮 ドイツカンマーフィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン:榎本大進 □顧客満足度	80%	89%	A			
		□合計入場者数 5,000人	5,000人	6,642人	A			
		(ウ)室内楽 新たな時代をリードする奏者や注目の若手奏者による横浜オリジナルの室内楽公演を企画実施 ●ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ)とシルクロード(横浜能楽堂連携) ●フォーレ四重奏団(ピアノ四重奏) ●鈴木優人指揮横浜シンフォニエッタ ヴァイオリン:アントワン・タメスティ ●山根一仁(ヴァイオリン)によるピアノ・トリオ公演 □顧客満足度 80%	80%	93%	A			
		□合計入場者数 1,200人	1,200人	1,781人	A			
様々な嗜好のお客様に幅広く来館してもらえるよう、個性的な公演を開催。他の音楽ジャンルのファン層の呼び込み、鑑賞者層拡大などにも取り組む。		イ 個性的な公演 多様な音楽ジャンルの公演 ●こどもの日コンサート ●ジルヴェスター・コンサート ●ピヨンド・ザ・ボーダー音楽祭 ●ヤング・アメリカンズ・ショー ●デーモン閣下の邦楽維新Collaboration □顧客満足度	80%	92%	A	イ 個性的な公演 (ア)多様な音楽ジャンルの公演 ●こどもの日コンサート 2回 2,810人 ●ジルヴェスター・コンサート 1,730人 ●ピヨンド・ザ・ボーダー音楽祭 4回 592人 ●ヤング・アメリカンズ・ショー 3日 1,758人 ●デーモン閣下の邦楽維新 2日 788人 (イ)低料金コンサート ●オルガン1ドルコンサート 8日 13,949人 ●みなとみらいクラシック・マチネ 7日 9,548人 ●みんな集まれ!おんがくひろば 6日 747人		
		□合計入場者数 7,700人	7,700人	7,678人	B			
		鑑賞者育成のための入門事業(定期的な低料金コンサート) ●オルガン1ドルコンサート(クリスマス含む) ●みなとみらいクラシック・マチネ ●みんな集まれ!おんがくひろば □顧客満足度	80%	93%	A			
		□合計入場者数	16,000人	24,244人	A			

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(2)政策目標(事業) 新たな音楽文化を提案する、優れた創造・創作の拠点となります。 総合展開 横浜芸術アクション事業計画	創造の場・創作拠点として音楽芸術文化の発展に貢献。	ア 独自性の高い事業 (ア)独自の小ホールオペラシリーズの開催 ●「メリー・ウイドウ」 ●「人間の声」 □顧客満足度	80%	88%	A	ア 独自性の高い事業 (ア)小ホールオペラ ●「メリー・ウイドウ」 2日799人 ●「人間の声」 2回362人	【成果】 小規模な会場におけるオペラの上演は、今や各地の施設で実施されていますが、内容の親しみやすさ、近隣のクイーンズスクエア横浜のショウケースを利用してオペラ衣裳を展示するなど街との連携や動画を用いたプロモーション、実力ある新進歌手の起用と発信、オペラ歌手の声をこどもたちに聴いてもらう取り組みなど、他ホールと一線を画する独自性の高い取り組みにより、優れた創造・創作の拠点としてのホールをアピールしました。 Just Composedでは能の謡と西洋楽器のコーポレーションが 高い関心を集めメディアへの露出や集客へとつながりました。 実行委員会と連携しながら、横浜音楽祭期間を中心に全29事業の横浜芸術アクション事業を実施し、横浜音楽祭2016の主会場のひとつとして開催趣旨の実現に取り組みました。	【評価できる点】 ・全ての指標で目標を上回った点を高く評価します。 ・小ホールオペラ公演で使用する衣装を近隣の商業施設に展示するといった趣向をこらした広報は、近隣の商業施設と連携しながら広報の可能性を拡げる新しい試みであり、横浜みなとみらいホールの新しい側面を見せる価値のある取組であり、高く評価します。
		□総入場者数 1,000人	1,000人	1,161人	A	(イ)現代作曲家シリーズ 「Just Composed2017」能・謡×弦楽四重奏 260人		
		(イ)現代作曲家シリーズの開催 ●若手作曲家を起用した「Just Composed2017」 □入場者数	200人	260人	A	(ウ)オルガン・シリーズ □入場者数 1,997人 ●三浦はつみオルガンリサイタル 556人 ●シネマ×パイプオルガン 1,414人 ●オルガンツアー 27人 □他都市連携事業 2回 ミューザ川崎、神奈川県民ホール、石川県立音楽堂	【課題】 小ホールオペラ事業については本年度に至るまで数年、質の高いオペラを気軽に聴いていただくという観点で成果を上げてきましたが、今後さらに演奏者の幅に広げ、中堅から若手出演者がホールに集まる仕組みを構築することが必要な段階となっており、現状の課題と考えています。	【改善が必要と考えられる点】 ・新しい分野の取組は、意義のある公演でありながらも、集客という点で苦勞をするケースもあるかと思えます。しかしながら、横浜みなとみらいホールとして発信すべき公演として、今後も力を入れて取り組み、オリジナリティを発揮することを強く期待します。
	(ウ)「オルガン・シリーズ」の開催 ●三浦はつみオルガンリサイタル ●シネマ×パイプオルガン ●オルガンツアー(他施設連携事業) □入場者数	1,000人	1,997人	A	□他都市連携事業			
	「横浜芸術アクション事業」の実施	14 イ 横浜芸術アクション事業 ●山田和樹指揮 バーミンガム市響 ●P.ヤルヴィ指揮 ドイツカンマーpo. ●K/バレエと青島広志指揮シアターオーケストラ ●新しい時代をリードする室内楽シリーズ I～Ⅲ ●山根一仁トリオ ●小ホールオペラシリーズ I～Ⅱ ●石田組 ●Just Composed2017 in Yokohama ●金の卵見つけました ●こどもの日コンサート ●シネマ×パイプオルガン ●横浜市招待国際ピアノ演奏会 ●ジルヴェスター・コンサート ●邦楽維新Collaboration ●心の教育ふれあいコンサート ●ビヨンド・ザ・ボーダー音楽祭 □顧客満足度	80%	91%	A	イ 横浜芸術アクション事業 ●山田和樹指揮 バーミンガム市響 1,435人 ●P.ヤルヴィ指揮 ドイツカンマーフィル 1,784人 ●青島広志指揮オーケストラバレエ 1,599人 ●新しい時代をリードするアーティスト1,375人 ●山根一仁トリオ 406人 ●小ホールオペラシリーズ I～Ⅱ 1,161人 ●石田組 1,824人 ●Just Composed2017 in Yokohama 260人 ●金の卵見つけました 304人 ●こどもの日コンサート 2,810人 ●シネマ×パイプオルガン 1,414人 ●横浜市招待国際ピアノ演奏会 1,029人 ●ジルヴェスター・コンサート 1,730人 ●邦楽維新Collaboration 788人 ●心の教育ふれあいコンサート 33,206人 ●ビヨンド・ザ・ボーダー 415人		
		□合計入場者数	44,500人	51,540人	A	【当初計画からの追加事業】 ●島田彩乃 ピアノ ドビュッシー前奏曲集全2巻 400人 ●マーク・パドモア×ティル・フェルナー冬の旅 402人		

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(3)政策目標(事業) 次代を担う芸術家、音楽と市民をつなぐ人材を育み、活動の機会を提供します。	若い音楽家の育成や支援を取組む。	ア 若い音楽家の育成や支援 (ア)演奏会への出演 ●小ホールオペラや「みなとみらいクラシック・マチネ」「みんな集まれ！」等への積極的な登用 □若手歌手/演奏家登用	10人	10人	B ア 若い音楽家の育成や支援 (ア)演奏会への出演 □若手歌手/演奏家登用 10人	【成果】 さまざまな事業で優れた若手音楽家を事業に登用し研鑽の機会を提供するとともに、次代を担う音楽家を育成支援する拠点としてのホールの機能をアピールしました。 さらに市民と音楽を繋ぐ活動を推進する複数のNPO法人の活動をサポートしたり、アートマネージメントを学ぶ学生をインターンとして受け入れることにより、芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成に取り組まれました。 また、今年度は2013年から設立している「みなとみらいSuper Big Band」が初めて市外での活動で1週間札幌に演奏遠征をし、楽団としての演奏レベルが大変高まりました。 【課題】 次世代育成事業については、今後の事業全体のあり方を意識しながら、対象ごとにより効果的な事業を実施し、さらにはわかりやすく発信することが必要で、現状の課題となっています。 芸術家や音楽と市民をつなぐ人材育成の取り組みについては、提携団体や事業参加者が新たに参入しやすい、開かれた環境に留意しながら事業のあり方を検討します。 コンサート作ろうの企画修了生による公演は、ワークショップを経て市民の自主的にコンサートを開催する活動へと繋げることを目指す企画でしたが、自主的な活動に至るまでには課題も多く参加者の広がりも難しかったため、事業手法の重点を項目「(イ)音楽大学・NPO・企業との連携事業」に移して市民の音楽活動支援に取り組まれました。なお本事業に限らず平成27年度の政策経営協議会で、提案書に記載のある事業の内容精査と必要に応じた変更は協議済みです。	【評価できる点】 ・全ての指標で目標を達成した点を高く評価します。 ・みなとみらいSuper Big Bandが地域での活動を定期的に実施し、さらに28年度は市外への遠征活動を実施するなど、横浜みなとみらいホールのアピールにつながる活動となっている点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・次世代育成として、安定的に好評を得ている事業がある点を高く評価する一方、パイプオルガンや質の高いコンサートホールであるという強みを生かして、若い世代に向けて、これまでとは異なったアプローチの検討を始めることも必要です。 ・みなとみらいSuper Big Bandに参加している子どもたちに対し、横浜みなとみらいホールならではの環境を提供する等、今後の取組に期待します。	
		(イ)現代の作曲家育成 ●Just Composed 2017 in Yokohama開催 □若手作曲家 登用	1名	3名	A (イ)現代の作曲家育成 □若手作曲家 3名の登用 鶴見幸代、馬場法子、斉木由美 ■関連プレトーク開催 「白石美雪によるJust Composed 2017の楽しみ方」			
		(ウ)一流奏者の指導を少年期から体験させる ●「みなとみらいSuper Big Band」 ●「オルガン体験弾いてみよう」 ●「金の卵探しています」 □「Big Band」参加人数	20人	37人	A (ウ)一流奏者の指導を少年期から体験させる □「Big Band」37人参加 □「オルガン」77人参加 □「金の卵」60人申し込み			
		□「オルガン」参加人数	45人	77人	A			
		□「金の卵」申し込み	30人	60人	A			
		(エ)オルガニスト育成 ●オルガニスト・インターンの育成 ■1年をかけて1名育成	実施	実施	B (エ)オルガニスト育成 □1年をかけて1名の育成 石川優歌(オルガニスト)			
		(オ)ピアニスト育成 ●第34回横浜市招待国際ピアノ演奏会の開催 □若手ピアニスト起用	4名	4名	B (オ)ピアニスト育成 □若手ピアニスト4名の起用 エフゲニ・ボジャノフ、小林海都 バラージュ・デメニー、ゲオルギー・チャイゼ			
		16 イ 芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成 (ア)「コンサートを作ろう」企画修了生による協力イベント ●企画参加修了生が活動を継続する □開催数	年1回	0回	C イ 芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成 (ア)次項目(イ)に記載のある音楽大学やNPOによる活動の支援に重点を移しながら市民活動を支援。			
			17 (イ)音楽大学・NPO・企業との連携事業 □提携事業 6事業	6事業	6事業			B (イ)NPO法人:ハマのJACK、STスポット、じぶん未来クラブ、横浜シティオペラ 一般社団法人ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン フェリス学院大学、昭和音楽大学(インターン受け入れ) 東海大学、桜美林大学、東京基督教大学(オルガン科授業)
				18 (ア)夏の時期の家族向けフェスティバルの再編 ●みなとみらいわくわく遊音地(3日間) □顧客満足度	80%			80%
3,000人	4,928人	A □入場者数 3,000人						
19 (イ)こどもを対象とした鑑賞事業の開催 ●心の教育ふれあいコンサート ●0歳からのオルガンコンサート ●こどもの日コンサート □入場者数	35,000人	38,490人	B 横浜市内の全公立小学校が参加する神奈川フィルハーモニーの鑑賞事業心の教育ふれあいコンサート、オルガンを活用して企画した0歳から入場できるコンサート、こどもの日にあわせてこどもにオーケストラ音楽に親しんでもらうコンサートを実施しました。					
	20 (ウ)障がいのある子どもを対象とするオルガンワークショップの実施 ●盲特別支援学校との提携事業 □開催数	年2回	年2回	B 市内の盲特別支援学校と連携し、パイプオルガンで音楽を鑑賞したり、音楽にあわせて遊んだり、パイプオルガンと一緒にリコーダーを吹いたり、パイプオルガンを実際に弾いてみたりする事業を実施しました。				
(4)政策目標(事業) 未来を担う子どもたちに音楽を知り、学び、体験することができる機会を設けます。		子ども対象の音楽による創造活動の体験の機会を施設内外で提供する。また、障がいのある子どもや介助を必要とする子どもなどへの取組を行う。	18	80%	80%	B	【成果】 定例事業として定着しているこどもを対象とした事業は、内容を精査改定しながら着実に実施しました。横浜音祭り2016を活用し、こどもたちが優れた音楽芸術に触れる機会を通常年以上に提供しました。 【課題】 現状ではこどもと社会包摂をテーマとした事業は実施数や参加者数が充分とはいえません。2020年を視野にいれつつさらに手法開発し充実させるとともに、対象も広げていく必要があります。	【評価できる点】 ・全ての指標で目標を達成した点を高く評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・「こどもの日コンサート」や「わくわく遊音地」等は、横浜みなとみらいホールが長年取り組んでいる企画であり、一定の成果を得ているからこそ、今後、より多くの入場者数、満足度を得るために、内容や開催時間等の再検討も必要と考えます。

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(5)政策目標(事業) 音楽文化の持つ可能性、 文化芸術の持つ社会的な 力を活かし、地域社会に貢 献します。	多様なアウトリーチ等の 研究をし、社会貢献す る。	21 (ア)小学校・福祉施設等におけるアウトリー チ事業への取り組み <input type="checkbox"/> 小学校	3校	5校	A	<input type="checkbox"/> 小学校5校(荏田西、今井、谷本、笠間、北山田) <input type="checkbox"/> 病院等より2施設(けいゆう病院、ポピンズ保育園)	【成果】 小学校へのアウトリーチは、横浜芸術アクション事業と連携 させながら優れたアーティストを起用して実施し、演奏を聴く ことの楽しさを子どもたちに実感してもらい、今後の事業の あり方にとっても大きな収穫となりました。横浜音祭り2016 期間中は、他の文化施設や駅前広場など、例年以上にさま ざまなアウトリーチ事業を実施し、街の賑わい創りに貢献し ました。 【課題】 ひとつひとつの取り組みにおいて、準備等に時間がかかる 割には、ある程度絞り込んだ事業参加者を対象とせざるを 得ないのが現状です。実施事業を精査し絞り込みながら、よ り効果的に事業計画に組み入れます。	【評価できる点】 ・「視聴ラウンジ」は、横浜みなとみらいホールのレセプショ ンルームという空間で、高級オーディオで音楽を楽しみ、上 質なひとときを過ごしてもらうという新しい視点の試みでし た。横浜みなとみらいホールのブランド力を生かした取組 だったと考えます。 ・自主事業の演奏者のアウトリーチでは、これまでとは異なる 場所(ジャズクラブや象の鼻テラス)で質の高い音楽を提 供し、街中でのにぎわいづくりに寄与したと考えます。 ・小学校では、横浜みなとみらいホールならではの専門性の 高さと実験的なアウトリーチを行い、演奏を聴く子どもたちに 良い効果を及ぼしたものと考えます。 【改善が必要と考えられる点】 ・事業実施時、「横浜みなとみらいホール提供のコンテンツ」 であることを積極的にアピールし、存在感を示す工夫を今 後、さらに期待します。 ・今後も専門的な強みを生かしたアウトリーチ等の企画を期 待します。また、アウトリーチでは「横浜みなとみらいホー ル」ならではの事業であることを打ち出して企画をしてくだ さい。
		<input type="checkbox"/> 病院・福祉施設等	1施設	2施設	A			
		(イ)市内の商業施設等でのアウトリーチを 開催 ●クイーンズサークル ●象の鼻テラス <input type="checkbox"/> 開催数	年4回以上	7回	A	(本郷台駅前、クイーンズサークル2回、象の鼻テラス2 回、市内ジャズクラブBarBarBar、横浜ベイホテル東急)		
		22 (ウ)「街の音楽院」シリーズ等レクチャーコ ンサート ●街の音楽院 ●その他のレクチャー(コンサート)等 <input type="checkbox"/> 総入場者数	120人	335人	A	みなとみらいホール音楽講座《視聴ラウンジ》として開催		
		<input type="checkbox"/> 街の音楽院 開催数	年2回	8回	A	「街の音楽院」を発展的に「試聴ラウンジ」に改編。 みなとみらいホール音楽講座《視聴ラウンジ》 9/11、10/9、15、16、11/20、1/8、2/12、3/19		
<input type="checkbox"/> その他レクチャー等 開催数	年2回	6回	A	<input type="checkbox"/> その他レクチャー等 6回開催 (Just Composed、横浜市招待国際ピアノ演奏会、などの 連携講座として開催)				
(6)政策目標(事業) ホールにおいて蓄積され た音楽に関する情報や ネットワーク、ノウハウを活 かし、市民の音楽活動を 支援します。	主催事業の記録化、横 濱みなとみらいホール公 演情報の整理。 音楽情報や国内外の芸 術家や機関とのネット ワークを活用し、市民の 音楽活動へのコーデ ィネーター機能の発揮。	23 ア 公演情報の記録と整理 <input type="checkbox"/> 主催公演の記録	実施	実施	B	【成果】 単なる記録にとどまらず、その後の活用を視野に入れた記 録映像の作成を実施しました。東京藝大大学院映像専攻の 卒業生たちとクオリティの高い映像作品を複数作成しまし た。 【課題】 記録映像からは生の演奏会の魅力が伝わりづらい場合も 多いため、二次的な活用を目的として記録映像を撮る場合 には十分な配慮が必要です。	【評価できる点】 ・これまでの主催事業を管理し、今後の分析に生かしている 点を評価します。 ・「コンサートホールに出かける」という視点で着目したス カーフ講座は、新しい視点であり、これまで横浜みなとみ らいホールに足を運んだことのないお客様にホールを認知し てもらうきっかけとなるものと考えます。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後は動画等を活用することで、横浜みなとみらいホー ルの取組をWEB及びSNS上で簡単に知ることができるようなプ ロモーションを期待します。 ・「市民の音楽活動のコーディネーター」という観点は、さま ざまな角度から展開することができるため、今後も横浜みな とみらいホールが挑戦したことがない内容にもチャレンジを してください。一方で、これまで関係性を築いた団体等との 関係性も重視し、横浜みなとみらいホールを拠点として、音 楽活動を行えるような環境づくりを進めてください。	
		24 イ コーディネーター機能 ●街の音楽院や自主イベントにまつわる講 演会の中で市民音楽活動に資する内容の 会を開催する。 <input type="checkbox"/> 講演会 開催数	年1回	年1回	B			9月 レセプションスタッフが横浜音祭り2016の賑わい創りに 貢献するため、市民の皆さんがコンサートに出かける時 の「スカーフの巻き方講座」を実施。横浜音祭り2016で制 作したスカーフを使用。

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価				
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
3 施設運営 (1)政策目標(運営) 利用者のニーズや利便性に考慮し、柔軟に対応することにより、施設の機能を最大限に発揮します。	柔軟に対応し、市民の創作活動・発表の場として広く認知されるように取り組む。	●地元オーケストラ団体との連携によるレセプションルーム活用事業 □連携事業数	年1回	1回	ナレッジ B	□12/10 神奈川フィル常任指揮者川瀬健太郎による「特別講座 入門編」 □レセプションルーム活用・PR: 視聴ラウンジ8回、スカーフ講座(一般向け): 2回 ■「横浜音祭り」会期中の貸館について、「パートナー事業」としてとりまとめました。また、場内アナウンスにおいて、「横浜音祭り2016」のPRを行いました。	【成果】 「横浜音祭り」会期中には、「横浜音祭り」のアナウンスを流したり、レセプションスタッフがオリジナルスカーフを身に付けお客様をお迎えし、「横浜音祭り」の盛り上げにつなげました。レセプションルームでは、「視聴ラウンジ」や「スカーフ講座」など、新たな活用提案、ホールへ出かける際の楽しみにつながるような取り組みを行いました。 レセプションスタッフに対する研修については、段階的に人材育成する通常研修のほか、クローク研修やアナウンス研修、全体研修での日頃の業務の全体確認・統一化など、おもてなし、サービスをより向上させる取り組みを行い、レベルアップをはかりました。	【評価できる点】 ・「横浜音祭り」会期中、事業面だけでなく、施設運営面でもイベントの賑わいづくりに大きく寄与したと考えます。 ・お客様対応を重視し、研修等に力を入れて取り組んでいる点を高く評価します。 ・近隣企業向けに開催されるコンサートは、「ホールのある街」戦略としても効果を生み出す実績と考えます。さまざまな近隣企業へ横浜みなとみらいホールの音響等、質の高さを伝えるなど、今後も継続できる取組と考えます。		
		●レセプションルームの利用PR □レセプションルームPR回数	年2回	2事業	B					
		■「横浜音祭り」会期中の利用者に対し、「横浜音祭り」の盛り上がり繋がる協力を依頼。	実施	実施	B					
	音楽を楽しむ層の拡大に取り組む	●企業等のコンベンションや顧客向けコンサートを誘致し、新たにコンサートホールに足を運ぶ層を獲得。 □開催数	年2回	4回	A				□企業等のコンベンション利用はありませんでしたが、近隣企業の顧客向けコンサートは4件。また、MICE利用に対する運用を検討しました。	【課題】 MICE利用については、運用を検討するにとどまりましたが、レセプションルーム利用については、動線や小ホール催しとの調整など課題があります。
	日本を代表するコンサートホールに相応しいと感じられる、質の高いサービスを安定的に提供する。	□新人研修 採用時2日間、その後2回に分けて実施	採用時2回 他、年2回	4回	B				適切に実施した。 □レセプションスタッフ向けスカーフ講座2回実施	
		□フォローアップ研修(採用6か月後実施)	年1回	1回	B					
		□チーフ研修	年1回	1回	B					
		□コーチャー研修	年1回	1回	B					
		□全体研修	年1回	1回	B					
		□避難訓練	年2回	2回	B					
□企業顧客向けコンサート:自動車会社主催:12/5、12/13、12/20/新聞社主催:1/30 企業顧客向けコンサートは、企業と出演団体・運営団体との調整等、きめ細やかに対応しました。		年2件	4件	A						
□利用率 ・大ホール ・小ホール ・リハーサル室 ・レセプションルーム ・音楽練習室	94% 97% 97% 66% 27% 76%	97% 97% 64% 31% 83%	B B B A B							
利用者のニーズ、満足度等を把握し分析を行い、事業の企画や運営の改善をする。	満足度の高い運営 □レセプションスタッフ・マネージャーミーティング 開催数	年10回	12回	A	ミーティングを通して、日頃の課題共有、運営改善につながるような検討を行いました。					
利用者の妨げとならないよう配慮した上での可能な限りの施設見学への対応。	□施設見学開催数	年95件	利用下見117件	A	利用下見だけでなく、利用検討のための下見、撮影下見など、今後の利用につながるよう対応しました。					
ホールの発信性を高め、音楽文化の振興に寄与する商品をショップ等で販売	ショップ販売 □オリジナル商品開発数 新規取扱商品数 ■公演に適した商品陳列を工夫して行う。	オリジナル商品1点 新規取扱商品4点	オリジナル商品1点 新規取扱商品20点	A B	ホールオリジナルのメモパッドを新規販売。 横浜フランス月間、商店街連携で新商品販売。 主催共催公演PRのために関連CD、書籍などを陳列。					
チケット販売だけでなくホールチケットセンター	■業務の基準に従い適切に実施	実施	実施	B	業務の基準に従い適切に実施しました。					
【ドリンクコーナー】主催者の求めに応じ公演開催時に飲料等の飲食サービスを提供できる体制を提供	■業務の基準に従い適切に実施 □横浜ベイホテル東急との意見交換開催数	実施	実施	B B	適切に実施しました。					
託児サービスの提供	■業務の基準に従い適切に実施 □HP等を活用した託児サービスの周知回数	実施	実施	B B	HP上で年2回周知。その他、雑誌でも託児サービスについて掲載。					

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(3)政策目標(広報・宣伝事業) プロモーションの充実	【プロモーションの戦略的取り組み】 適切な商圏・対象層の設定、媒体の選択を行い、効率的・戦略的プロモーションに取り組む。	効率的・戦略的プロモーション ●首都圏への情報発信 □交通広告等の出稿 回数	年1回	交通広告の代替手法として 市外ミニコミ誌への 広告出稿を1回実施	B	交通広告は改めて費用対効果を検証しつつ、これまで広報活動が充分とは言えなかった市外ミニコミ誌への広告掲載へと手法を変更した。 各媒体への情報掲載は、音祭り事業を中心に話題をつくり、これまで築いた記者・担当者とのネットワークを最大限活用しながら情報発信に努めた結果が実績に現れた。 入会金無料キャンペーンから変更して、ロイヤルティを向上するための「会員の集い」を実施(2回)。 公開リハーサルやロビーコンサートはMMCJや神奈川フィルと連携しながら目標以上の実績を達成した。 主催事業のみならずホールのさまざまな業務に関する話題づくりに努め、それをWEBサイトやツイッター、メールマガジンで発信した結果、いずれも目標を大幅に上回る成果に繋がった。メールマガジンは画像を活用したフォーマットの見やすいメールマガジンを新たに導入した。 チケットセンターWEBでは先行販売を優遇策として実施。	【成果】 音祭り2016をホールの情報発信の絶好の機会と捉え、これまで関係を築いてきた媒体担当者への情報提供や掲載依頼、およびそれと連動した広告出稿、細やかな話題づくりとネットでの発信に取り組み、目標を大幅に上回る実績を得ることができました。 【課題】 主催事業の情報発信の割合が大きいのが現状です。ホールで行われている他の主催者による公演や、それに付随するさまざまなサービスの情報、近隣街の情報など、より幅広い内容で情報発信する工夫が必要です。 その重要な手法のひとつとして、ホームページやそれに連動するWEB媒体には、まだまだ魅力的な発信方法や活用の余地があります。	【評価できる点】 ・各媒体への情報掲載数が、大幅に目標を上回っており、多くの媒体で、横浜みなとみらいホールの取組を広報できた点を評価します。 ・若手アーティストの公演広告をクラシック情報誌だけでなく、女性誌に掲載するなど、公演によって広報手法を検討している取組を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・首都圏、横浜市外に対して、どれだけ横浜みなとみらいホールの存在をPRするか、今後も戦略をたてて、効果的な広報を期待します。 ・ホームページ等、WEB媒体は、費用対効果も良く広く発信できるツールであることから、ツイッター以外の手法導入の検討や、発信の仕方、即時性に着目した広報を期待します。
		●プレス懇談会実施によるメディアとの関係構築 □プレス懇談会 開催数	年1回	年1回	B			
		●各媒体との関係強化・情報発信力アップ □各媒体への情報掲載数	年間70件	年間2,707件 月平均225件	A			
		●友の会の活性化 □入会金無料キャンペーン 実施数	年1回	年2回	A			
		●公開リハーサル・ロビーコンサート実施 □実施回数	年2回	公開リハーサル 3回 ロビーコンサート 2回	A			
		●コンサートカレンダーの発行 □コンサートカレンダー発行数	年4回	年4回	B			
		□年間コンサートカレンダー 発行数	年1回	年1回	B			
	【WEBツールを用いた取り組み】 WEBツールを活用し、施設案内や公演情報だけでなく利用者が必要とする様々な情報を、見やすく使いやすい形で提供する。	●WEBサイトの充実 □トップページアクセス数	年32万件	年50万件	A			
		●メールマガジン配信 □メールマガジン配信 月1回	月1回	年間19回	A			
		●メールマガジン登録者数拡大 □登録者数	7,000名	9,785名	A			
		●ツイッター活用 □ツイッターでの発信 年間200ツイート	年200ツイート	年298ツイート	A			
□ツイッターフォロワー 500件	500件	4,986件	A					
●チケットセンターWEBでの販売強化を通じた新たな顧客層の開拓 □WEB登録者優遇策の実施	実施	実施	B					
(4)条例の遵守	施設の休館日	●安全面に配慮し適正な休館日を確保する。10～12月のコンサートシーズンは月1日の休館日とし、柔軟に対応する。 □適正な休館日の確保	31日	31日	B	【成果】 これまでの経験の蓄積により、条例を遵守しつつ、休館日を適切に調整し、また効率的戦略的に施設の貸出業務をおこなうことができました。 BS民放5局共同特別番組においては、日頃ホールに足を運ばない層への横浜みなとみらいホールのアピール、認知度向上につながりました。 【課題】 施設利用者が多様化していることへの対応が求められています。	【評価できる点】 ・条例に則って適切に対応している点を確認しました。 ・施設管理と貸出業務のバランスを考慮した、休館日設定について評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
	施設の開館時間	■9:00～22:00 ■早朝利用、深夜利用など可能な範囲で柔軟に対応	実施	実施	B			
	利用料金等	■条例に基づいた、適切な料金徴収。	実施	実施	B			
	施設利用の貸出業務	■利用者ニーズに配慮し、条例・規則に基づいた貸出。 ■撮影等の利用にも柔軟に対応。	実施	実施	B			
	貸出に関する留意事項	■条例・規則に基づいた、設置目的や利用者の安全に配慮した貸出。	実施	実施	B			

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 施設維持管理 政策目標(施設維持管理) 快適な環境を維持するとともに、安全かつ安心して利用できる施設保全	適切な管理の実施	□楽器定期メンテナンス/調律 ・パイプオルガン	年1回	年1回	B	計画に基づき適切に実施しました。また安全性/快適性の観点から、一部施設について指定管理者の自己負担で改良/修繕工事を実施しました。	【成果】 開館18年目を迎え建物/設備の経年劣化が進行しているため、日常点検による劣化箇所の把握や事前保全に努め、年間を通じて安定的に施設を管理運営しました。また指定管理者の自主財源により、利用者の安全性/快適性の向上につながる改修を実施、設備の改善に努めました。 【課題】 施設/設備の劣化の進行に伴い、小破修繕の実施件数/金額が増加しています。また、公演の実施に係わる障害については緊急修繕が必要なため、基準金額を超えた修繕業務についても指定管理者発注による工事とならざるを得ない事例も想定されます。 施設の安定的な稼働に向けて、予防保全の積極的な実施が必要であり、設置者への情報提供を強化する必要があります。また、突発的な修繕への対応についてより実態に即した保全/修繕体制の検討が望まれます。	【評価できる点】 ・28年度は竣工19年目であり、各種不具合が発生している中、的確に対応し、大きな事故なく運営している点を評価します。 ・ホール特有の設備である舞台機構や音響、照明については、委託業者と調整し、必要な修繕内容を把握し、対応に努めている点を評価します。 ・楽器のメンテナンスを定期的実施することで、横浜みなとみらいホールとしての質を保つ努力を行っている点を評価します。 ・複合施設であることから管理組合との情報交換や関係性の維持は非常に重要であり、適切に対応している点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・施設、設備の老朽化が進む中で、これまで以上に、小さな不具合を見逃さず対応をお願いします。また、横浜市への迅速な情報共有を徹底してください。
		・コンサートピアノ	年1回	年1回	B			
		・練習室ピアノ	年12回	年12回	B			
		・リハーサル室ピアノ	年1回	年1回	B			
		・楽屋ピアノ	年3回	年3回	B			
		■設備不具合や要清掃箇所など日々の連携をはかるとともに、連絡票等での対応チェックを行う。	実施	実施	B			
		■専門業者への委託による専門知識を活用し、修繕時期の決定、省エネ提案などに反映。	実施	実施	B			
		■休館日設定や、予算面などの情報交換を密にはかり、大規模修繕計画を進める。	実施	実施	B			
	□過失事故件数	0件	0件	B				
	施設維持管理業務	●QSY管理組合事務局会議、管理打合せ等に参加し、周辺との連携を図る。	実施	実施	B	適切に実施しました。		
		●平成29年2月実施予定のQSY全体新BAシステム総合運動試験を円滑に実施する。 ■近隣地区との連携強化	実施	実施	B			
		●設備関係の点検・定期整備業務	実施	実施	B			
		●舞台関係の点検・定期整備業務 □客席保守点検: 大小ホール共	年2回	年2回	B			
		□舞台照明定期保守	年3回	年3回	B			
		□舞台音響定期保守	年2回	年2回	B			
		□舞台機構定期保守	年3回	年3回	B			
	環境維持管理業務	□空気環境測定	年6回	年6回	B	適切に実施しました。		
		□照度測定	年2回	年2回	B			
		■ごみ分別の徹底	実施	実施	B			
	保安警備業務	4	業務の基準に基づき保安警備業務を適切に行う □過失事故件数	0件	0件	B		
駐車場・搬入口管理業務	5	業務の基準に基づき駐車場利用者等の安全確保。搬入口での搬出入は警備員立会い。 □過失事故件数	0件	0件	B	適切に実施しました。		
6階屋上庭園の取り扱い	6	□植栽の手入れ(専門業者への委託)	年5回	年5回	B	劣化のみられるウッドデッキ部分について応急措置により安全を確保すると共に、劣化状況について横浜市に報告し、情報を共有しました。		
	■植栽や屋上の日々の状況把握、横浜市と共有。ウッドデッキの安全確認。	実施	実施	B				
防災等	7	■地域全体での情報共有 □QSY防火防災管理協議会 会議参加	年2回	実施	B	施設内の防火防災訓練について適切に実施しました。またQSY防火防災管理協議会の構成団体として会議等での情報共有を図ると共に、同協議会主催の防災訓練にも参加し、近隣施設との連携強化に努めました。		
	□防災管理自主点検	年2回	年2回	B				
	□防災設備点検	年1回	年1回	B				
	□消防訓練・防災訓練(避難訓練コンサートを含む)	年2回以上	年3回	A				

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	緊急時の対応	8 ■施設内での周知の場を設定 ■緊急時の救急要請、事故報告を速やかに行うとともに、スタッフへの周知を徹底	実施	実施	B 適切に実施しました。		
	有資格者の配置	9 ●電気主任技術者 ■QSY管理組合の電気主任技術者をもって配置に替える。 ●建築物環境衛生管理技術者 ●ボイラー技師 ■管理センターに技術者を設定(ボイラー含む) ●無線従事者 □無線従事者 2名配置 ●甲種防火管理者及び防災管理者 □防火・防災管理者 職員1名配置	実施	実施	B 所定の要員を適切に配置しました。		
	条例で定める業務以外で施設を使用する場合	10 ■条例および規則に基づき、都度適正な手続きを行う	実施	実施	B ショップ事業、自動販売機設置など、目的外使用に該当する部分について適切に手続きを行いました。		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
5 その他 政策協働型指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	政策経営協議会の開催	1 □政策経営協議会の実施	年4回	年3回	C 横浜市と調整の上、実施しました。	【成果】 平成28年度は「横浜音祭り2016」開催年であり、「横浜音祭り2016」を含めた全事業ラインナップ、各事業の進捗状況、全体の収支状況等、例年以上に設置者との情報交換に実施し円滑な事業推進/管理運営に努めました。 【課題】 定例モニタリング以外にも様々な報告/連絡を行うことで、設置者-指定管理者間のコミュニケーションが充実する一方、報告/連絡方法について検討が必要です。	【評価できる点】 ・適切に市と情報共有を行っている点を確認しました。 ・政策経営協議会は、目標を下回っていますが、市・指定管理者協議のもと、適切な回数を開催しました。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
	計画の策定及び業務報告	2 ●モニタリング実施。 □原則月1回(8月2月を除く) ■モニタリング時の情報交換を密にし、次年度の計画につなげる。	原則月1回	年10回	B 定例モニタリングとして10回実施しました。また事業繁忙期等、必要に応じて事業実施状況について随時追加モニタリングを実施しました。		
	業務評価	3 □自己評価・横浜市評価 ■指定管理者選定評価委員会による外部評価、業務視察、ヒアリング実施。	年2回	実施	B 所定の手続きを実施しました。		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
6 収支 収支計画	収入(収入向上及び外部資金導入の努力)	1 ●ファンドレイジング活動の推進 □企業協賛金・助成金獲得	10,000千円	33,274千円	A 予算作成時に計上されていなかった文化庁助成金が予算確定後に内定し、事業終了後に申請した結果21,180千円と確定した、その分収入増となりました。	【成果】 事業収支については、助成金の獲得、チケット販促への取り組みにより収入を確保しより積極的な広報に繋げ「横浜音祭り2016」をはじめとする諸事業のアピールにつなげるように努めました。 全体収支としても修繕費が増加する一方で利用料金収入の確保や光熱費の低下(省エネ努力、光熱費単価の低下)に支えられ堅調な決算となりました。 【課題】 光熱費単価については低廉なエネルギー価格水準等、外部要因による要素によるものであり将来的な見通しが困難です。また修繕費については今後も増加が見込まれ、今後は安全/快適な施設運営維持のための財源確保という観点が必要です。	【評価できる点】 ・自主財源比率が高く、指定管理料に依存しない収支構造が確立できている点を高く評価します。 ・目標より高い協賛金獲得となった点を高く評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も助成金を獲得するために、横浜みなとみらいホールの個性を発揮した取組に力を入れて取り組んでください。また、協賛金についても、ホールの魅力をアピールすることで、企業とのより良い関係性を築き、資金獲得に力を入れることを期待しています。 ・光熱水費の減は外的要因によるものが多いため、安定的な収支構造を維持するため注視が必要であり、今後も利用料金獲得、事業収入の増を視野に入れて取り組んでください。
	支出(適切な支出配分、コスト削減への努力)	2 □電気使用量・冷熱水量25年度使用量維持(25年度使用量)	25年度使用量維持	電気使用量 94% 冷水使用量 68% 温水使用量 87%	A 天候、利用状況等の日々の状況に対応したエネルギーコントロールにより、各使用量については目標を達成することができました。		

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
7 組織 組織	明確な責任体制の構築	1 ■新たな組織図及びグループ毎の業務分担表作成 □企画運営会議 毎週開催	実施	実施	チェック B 業務分掌を明確にし、毎週の企画運営会議により業務の進捗を共有しました。ホール運営にかかる合議案件を決定するグループ長会を毎週開催しました。	【成果】 適切な職員配置をして組織を構築し、安定したホール運営ができました。	【評価できる点】 ・適切に人材配置を行っている点を確認しました。	
	専門人材の確保と高い専門性を発揮できる組織	2 ■必要な人材を確保し、各専門性に応じた適正な人員配置	実施	実施	B 貸館業務や施設管理保守、事業企画業務など全ての分野において経験豊富な職員を配置しました。	【課題】 引き続き、ホール運営全体の専門人材の育成に取り組みます。	【改善が必要と考えられる点】 ・新しい企画や事業を生み出し、また、横浜みなとみらいホールの魅力を高めるためにも、専門人材だけにとどまらず、施設全体の人材育成に引き続き力を入れてください。	
人材育成		3 ●MBOIによるOJTの積極的な実施。 ■MBOの目標設定、中間・期末評価において、各自の業務の進行確認を推進し、評価のフィードバックを適切に行う	実施	実施	B	滞りなく実施しました。	【成果】 横浜音祭りの開催に際して、職員もレセプションистも新たな目標を掲げ、研修などとおしてスキルアップに取り組むことができました。	【評価できる点】 ・適切に人材育成を行っている点を確認しました。
		●ホール独自研修 レセプションист研修【再掲】		各種研修実施	B			
		新規配属職員への個人情報研修	年1回	都度実施	B			
		●事務局研修への参加 ■事務局研修に積極的に参加できる体制構築。	実施	実施	B	【課題】 引き続き取り組むことが必要と考えています。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
8 留意事項 保険及び損害賠償の取扱い		1 ■業務の基準に定められた内容で保険に加入する。(施設賠償責任者保険、動産総合保険、レジャーサービス費用保険)	実施	実施	チェック B 適切に実施しました。	【成果】 これまでの経験により適切に業務を遂行できました。	【評価できる点】 ・業務の基準に基づき、施設賠償責任保険の加入及び保険適用となる事故等の発生がなかったことを確認しました。
		2 ■事故発生時には必要な手続きをとり、適正な取扱いを行う。	実施	実施	B 適切に実施しました。	【課題】 高齢の利用者・来場者の状況をふまえた取扱いが必要となってきています。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
法令の遵守と個人情報保護		3 ■公の管理者としての法令遵守 ■個人情報取扱いマニュアルの周知徹底	実施	実施	B 適切に実施しました。	【成果】 横浜市の外郭団体であるからこそその研修受講や注意深い対応により正しい対応ができました。	【評価できる点】 ・個人情報保護等に関して、マニュアル等に基づき、実施している点を確認しました。
		4 ■マイナンバー制度事務取扱手順の徹底と事故防止 ■個人情報チェックリストによる点検実施	実施	実施	B 適切に実施しました。	【課題】 横浜市と連携し、また財団独自でも研修を継続していきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・横浜みなとみらいホールは事業数が多く、施設からの情報発信数が多いことから、個人情報に係る事案を未然に防ぐためのチェック体制について再度確認を行ってください。
情報公開への積極的取組		5 ■横浜市、財団事務局との連携をはかり、情報公開を行う。	実施	実施	B 適切に実施しました。	【成果】 横浜市の外郭団体であるからこそその連携により情報公開を適正におこなうことができました。	【評価できる点】 ・情報公開の取組を適切に実施していることを確認しました。
市及び関係機関等との連絡調整		6 ■横浜市(政策協議会含む)や関連機関との情報共有をはかり、事故・苦情等は横浜市および財団事務局へ速やかに都度報告	実施	実施	B 適切に実施しました。	【成果】 横浜音祭りの開催年でもあったので、横浜市関係所管との連絡調整は更に深められました。	【評価できる点】 ・適切に連絡調整を行っていることを確認しました。
						【課題】 引き続き、怠りなく取り組むことが必要と考えています。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。

平成28年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	H28年度計画	実施状況	評価	
	達成指標	説明	自己評価	行政評価
総括	1		<p>多くの横浜市民が参加し街全体が舞台となった音楽フェスティバル「横浜音祭り2016」の主会場のひとつとなったことを好機と捉え、鑑賞事業のみならず、育成、地域連携や専門館連携などを通年で取り組み、ホールのプレゼンスを高めることができました。ホール運営においては、今年度も高い稼働率を確保し、かつ安全に運営することが出来ました。フェスティバルの賑わい創出のために貸館主催者にも協力を得るなどホールのプレゼンス向上に運営面でも貢献できました。</p> <p>開館以来18年以上が経過し、施設の経年劣化が引き続き課題となっています。「安全・安心」な施設運営のために近年のお客様の要望に応えるとともに、「快適」な施設運営のため、施設改善と備品の買い替えにも取り組みました。</p> <p>横浜みなとみらいホールは、公共ホールの役割として重要と考える市民の音楽活動支援を重視し、一方では質の高い音楽事業を企画制作して鑑賞普及や鑑賞育成をおこなっています。また協賛金を募っての若手演奏家育成や子ども事業などにも取り組んでいます。今後も、市民、行政、地域といった様々なステークホルダーの理解を得ながらホール運営していくことが課題であると考えています。</p>	<p>「横浜音祭り2016」では主会場として、横浜みなとみらいホールの強みを活かした、世界的なオーケストラ公演から、質の高い室内楽の公演、若手アーティストの公演、街や他施設における事業等、様々な角度からの取組を数多く開催しました。これらの取組はイベントだけでなく、横浜の賑わいづくりに寄与したものと考えます。</p> <p>また、27年度から実施してきた各種事業の精査・見直し等、例えばクラシック・マチネの質の高い公演の開催等、効果を発揮しました。その一方で、公演日程や開演時間等が集客数に影響する等、対象とした層に適した開演時間の検討等も必要です。また、様々な事業の発信手法として、SNSを活用した広報は開拓の余地があります。今後も、事業や広報手法の課題分析に取り組み、さらなる改善を進めていくことを期待しています。</p> <p>施設管理については、経年劣化が進む中、修繕案件が多く、突発的な案件について確実に対応している点を高く評価します。今後も日常点検と市への情報共有が重要となるため、引き続き安全を重視した管理をお願いします。</p> <p>28年度は、施設の魅力アップや安全対策に自主財源で取り組み、施設改善につながっているものと考えます。</p> <p>若手演奏家育成や次世代育成の事業は、公共ホールである横浜みなとみらいホールにとって重要な使命のひとつです。現在、協賛金を主として展開しているため、今後も丁寧かつ効果的な説明をしていただき、協力関係を継続するほか、これらの意義のある取組を多くの方知ってもらう広報についても力を入れて取り組んでください。</p>